

令和3年度喜多方市農業振興協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本市は、福島県の北西部、会津盆地の北部に位置し、良質な水と肥沃な土壌、自然環境等に恵まれ、生産基盤の整備や機械化体系も進んでいることから、水田面積の約8割において主食用をはじめとする様々な水稻が作付けされている。

また、近年、水稻との複合経営が進み、東北有数の生産量を誇るグリーンアスパラガスのほか、キュウリ、ミニトマト、花き等の園芸作物や県内一の生産量を誇るソバ、良質な和牛の産地形成が図られてきたが、農業従事者の減少・高齢化、後継者不足により、荒廃農地や不作付地が増加しており、本市農業を支える多様な担い手の育成・確保が進まなければ本市農業の生産基盤の脆弱化していくおそれがある。

こうした中、本市農業・農村が持続的に発展するためには、本市の基幹作物である米の価格安定はもとより、農業が他産業並みの所得が得られ、そして若者等の職業選択の対象となる魅力ある産業として発展させる必要がある。

このため、関係機関・団体との連携の下、農業者等に対し、需給バランスの重要性について周知しながら、担い手への農地集積・集約化による規模拡大とともに、小規模でも経営が成り立つ高収益な園芸作物の生産拡大や施設化等を進め、水田農業の収益力強化を図る必要がある。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

(1) 適地適作の推進

麦、大豆については、湿害回避のための排水対策や土づくり等による土壌改良の推進、さらには連作障害回避のための作付体系の確立等が重要であることから、市全体のは場条件等の検討を行い、麦・大豆に適したほ場での作付を推進する。

(2) 収益性・付加価値の向上

本市が振興作物として位置付けるアスパラガス、キュウリ、トマト、ミニトマト、トルコギキョウを中心に高収益が見込まれる園芸作物の導入による経営複合化や高品質で安定した収量が確保できる施設化の推進を図る。これら品目の作付推進に当たっては、県が策定した園芸振興プロジェクト「品目別プロジェクト地方別計画」に基づき、関係機関・団体と連携しながら推進を図ることとする。

(3) 生産コストの低減

飼料用米や新市場開拓用米の収益性を高めるため、担い手への農地集積・集約化とともに、作期を分散することで労働力や機械等を増やすことなく、規模拡大が可能となる品種構成への誘導を図る。加えて、多収品種と多肥栽培を組み合わせた多収栽培技術や直播・密苗栽培等の省力・低コスト化栽培技術の普及拡大により、更なる生産コストの低減を進める。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

(1) 地域の実情に応じた農地の在り方

本市は、良質な水と肥沃な土壌に恵まれ、盆地特有の高温多湿の気候等から水稻栽培に適し、稲作を中心とする大規模経営体の育成が図られてきていることから、環境にやさしい農業等による付加価値の高い米づくりと併せて、コシヒカリと作期の異なる多収品種による備蓄米や非主食用米の作付拡大を基本に水田の有効利用を進める。

(2) 水田の利用状況の点検方針・点検結果を踏まえた対応方針

本年度は、市内全域において転作作物の作付が定着し、水稻を組み入れない作付体系が5年以上定着しているほ場の有無について関係機関による点検を行うとともに、農業者を含めた話し合いを行い、次年度以降の畑地化支援の対象となるよう進める。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

本市の主要品種であるコシヒカリの販路拡大によるブランド化の推進とともに、環境にやさしい農業等による付加価値の高い米づくりを推進する。

また、県オリジナル品種である「天のつぶ」等の多収品種は、収量によってはコシヒカリと同等以上の収入が見込め、作期を分散することで労働力や機械等を増やすことなく、規模拡大が可能となることから、米の需要動向を踏まえた多様な米づくりの推進を図る。

(2) 備蓄米

備蓄米は、主食用米に近い価格が期待できることから、非主食用米の選択肢の一つとして「天のつぶ」等の県オリジナル品種や国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構が開発した多収品種や多収品種による取組を推進する。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

安定した需要が見込める飼料用米の生産拡大に向け、飼料用米の収益性を高めるため、ほ場の集約化とともに、産地交付金の活用により多収品種と多肥栽培を組み合わせた多収栽培技術に加え、省力・低コスト化栽培技術の導入や家畜ふん堆肥の施用を推進する。

イ 米粉用米

近年、市内での作付は大きく減少しているが、ノングルテン食材としての需要があり、全体的な需要は増加傾向にあることから、複数年契約等の取組を通じて実需者との結び付きを深めるとともに、米粉用米の収益性を高めるため、生産性の向上とコストの低減の取組に加え、産地交付金の活用により家畜ふん堆肥の施用を推進する。

ウ 新市場開拓用米

諸外国における輸入規制の解除や風評の払拭につながる米の輸出促進に向け、生産コストの低減により国際競争力を高めるため、ほ場の集約化とともに、産地交付金の活用により多収品種と多肥栽培を組み合わせた多収栽培技術に加え、省

力・低コスト化栽培技術の導入や家畜ふん堆肥の施用を推進する。

エ WCS 用稲

耕畜連携による地域内の畜産農家との安定的な需給体制を構築し、生産の維持・拡大を図るとともに、WCS 用稲の生産性を高めるため、ほ場の集約化とコストの低減の取組に加え、産地交付金の活用により家畜ふん堆肥の施用を推進する。

オ 加工用米

地域の米を活用した酒づくりに意欲をもった酒造業者が多く、着実な需要が見込まれることから、複数年契約等の取組を通じて実需者との結び付きを深めるとともに、加工用米の収益性を高めるため、生産性の向上とコストの低減の取組を推進する。

(4) 麦、大豆、飼料作物

水田フル活用や地産地消につながる麦、大豆については、湿害、天候不順等により、収量、品質が不安定になりやすいため、産地交付金の活用により団地化や二毛作による水田の高度利用、さらには家畜ふん堆肥の施用を推進し、収量・品質の向上と安定化を図る。

飼料作物については、畜産経営コストの低減と安定化に向け、地域内の飼料自給率を高める必要があることから、自給飼料生産体制の充実に加え、産地交付金の活用により麦、大豆同様の支援を通じて収量・品質の向上と安定化を図る。

(5) そば、なたね

そばについては、地域特産作物として産地化が図られ、地元のそば店等の実需者との結び付きにより、地産地消による地域活性化につながっているが、湿害、天候不順等により、収量、品質が不安定になりやすいため、産地交付金の活用により団地化や二毛作による水田の高度利用、さらには家畜ふん堆肥の施用を推進し、収量・品質の向上と安定化を図る。

なたねについては、菜種油や油かすの製造に活用でき、地産地消や水田フル活用に寄与できることから、そば同様の支援を通じて収量・品質の向上と安定化を図る。

(6) 高収益作物

ア 野菜

米依存型農業からの転換による水田農業経営の安定化に向け、水田フル活用による地域の特性を生かした産地づくりを進めるため、産地交付金の活用により東北有数の生産量を誇るアスパラガスをはじめ、キュウリ、ミニトマト等の野菜の生産拡大や施設化、家畜ふん堆肥の施用を推進し、収益性の高い農業経営の確立を図る。

イ 花き・花木

トルコギキョウ、リンドウ、ユウカリ等の切り花を中心に地域の特性に応じた多様な花き・花木が栽培されているものの、花き全体の栽培面積は年々減少傾向にあることから、実需者のニーズに対応した産地づくりを進めるため、県オリジナル品種等の優良な品種や需要期を踏まえた品種・作型の導入に加え、産地交付金の活用により花き・花木の生産拡大や施設化、家畜ふん堆肥の施用を推進し、収益性の高い農業経営の確立を図る。

ウ 果樹

リンゴ、西洋ナシ、柿、ブドウ等、地域の特性に応じた多様な果樹が栽培され、市場出荷だけでなく、贈答や直売等の多様な販売や加工による6次産業化が展開されていることから、産地交付金の活用により果樹産地の維持・拡大を図るとともに、家畜ふん堆肥の施用を推進し、収量・品質の向上と安定化を図る。

エ その他作物

エゴマを中心に葉タバコ、綿、落花生等、実需者との契約栽培や地域の直売所向け用等として多様な品目が栽培されていることから、産地交付金の活用により実需者のニーズに対応した多様な園芸作物の生産拡大と家畜ふん堆肥の施用を推進し、収益性の高い農業経営の確立を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物等	前年度作付面積等 (ha)	当年度の作付予定面積等 (ha)	令和5年度の作付目標面積等 (ha)
主食用米	5,050.8	4,673.0	4,293.0
備蓄米	392.9	500.0	600.0
飼料用米	63.5	321.0	380.0
米粉用米	0.2	1.0	2.0
新市場開拓用米	35.1	35.6	95.0
WCS用稲	111.2	118.2	140.0
加工用米	31.6	37.0	43.0
麦	2.9	4.0	20.0
大豆	29.3	29.0	35.0
飼料作物	49.1	50.0	55.0
・子実用とうもろこし	0.0	0.0	0.0
そば	397.4	400.0	420.0
なたね	0.2	0.3	1.5
高収益作物	261.7	257.0	298.0
・野菜	228.5	224.0	260.0
うちアスパラガス、キュウ リ、トマト、ミニトマト	72.1	75.0	80.0
・花き・花木	11.0	11.0	12.0
うちトルコギキョウ	1.8	2.0	2.5
・果樹	18.9	19.0	21.0
・その他の高収益作物	3.3	3.0	5.0
その他	0.0	0.0	0.0
畑地化	0.0	0.0	0.0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績） （令和2年度）	目標値 （令和5年度）
1	野菜（振興作物） （基幹作物）	戦略施設園芸作物助成	取組面積	31.2 ha	34.0 ha
1	花き（振興作物） （基幹作物）	戦略施設園芸作物助成	取組面積	1.8 ha	2.5 ha
2	野菜（振興作物） （基幹作物）	戦略露地園芸作物助成	取組面積	33.9 ha	35.5 ha
3	野菜 （基幹作物）	施設園芸作物助成	取組面積	0.7 ha	1.5 ha
3	花き・花木 （基幹作物）	施設園芸作物助成	取組面積	1.0 ha	1.5 ha
4	野菜 （基幹作物）	露地園芸作物助成	取組面積	16.3 ha	18.0 ha
4	花き・花木 （基幹作物）	露地園芸作物助成	取組面積	5.2 ha	7.0 ha
4	果樹 （基幹作物）	露地園芸作物助成	取組面積	4.2 ha (0.4)	6.0 ha (0.6)
4	その他の高収益作物 （基幹作物）	露地園芸作物助成	取組面積	2.2 ha	3.5 ha
5	小麦 （基幹作物）	麦団地化生産助成	取組面積 10a当たりの収穫量	0 ha 209 kg/10a	5.0 ha 220 kg/10a
6	大豆 （基幹作物）	大豆多収化生産助成	取組面積 10a当たりの収穫量	11.8 ha 139 kg/10a	18.0 ha 180 kg/10a
6	大豆 （二毛作）	大豆多収化生産助成	取組面積 10a当たりの収穫量	0 ha — kg/10a	2.0 ha 180 kg/10a
7	そば （基幹作物）	そば団地化生産助成	取組面積 10a当たりの収穫量	69.8 ha 57 kg/10a	95.0 ha 65 kg/10a
7	そば （二毛作）	そば団地化生産助成	取組面積 10a当たりの収穫量	76.9 ha 57 kg/10a	90.0 ha 65 kg/10a
8	飼料作物 （基幹作物）	自給飼料省力・低 コスト化生産助成	取組面積 10a当たりの収穫量	8.6 ha 406 kg/10a	15.0 ha 550 kg/10a
9	麦 （二毛作）	二毛作助成	取組面積 基幹作物作付面積のうち二毛 作に取り組んでいる割合	0 ha 0 %	1.0 ha 20.0 %
9	大豆 （二毛作）	二毛作助成	取組面積 基幹作物作付面積のうち二毛 作に取り組んでいる割合	0 ha 0 %	2.5 ha 12.5 %
9	そば （二毛作）	二毛作助成	取組面積 基幹作物作付面積のうち二毛 作に取り組んでいる割合	146.9 ha 40.0 %	170.0 ha 42.5 %

9	なたね (二毛作)	二毛作助成	取組面積 基幹作物作付面積のうち二毛 作に取り組んでいる割合	0 ha 0 %	0.5 ha 25.0 %
10	飼料用米 (多収品種) (基幹作物)	飼料用米 低コスト化助成	取組面積 10a当たりの収穫量 10a当たりの生産費	48.9 ha 716 kg/10a 100,400 円/10a	230.0 ha 760 kg/10a 98,900 円/10a
11	飼料用米 (一般品種) (基幹作物)	飼料用米 低コスト化助成	取組面積 一般品種による作付割合 10a当たりの生産費	11.0 ha 17.3 % 101,200 kg/10a	50.0 ha 13.2 % 99,700 円/10a
12	新市場開拓用米 (多収品種) (基幹作物)	新市場開拓用米 低コスト化助成	取組面積 10a当たりの収穫量	13.6 ha 660 kg/10a	60.0 ha 720 kg/10a
13	新市場開拓用米 (一般品種) (基幹作物)	新市場開拓用米 低コスト化助成	取組面積 10a当たりの収穫量	0 ha — kg/10a	20.0 ha 600 kg/10a
14	麦 (基幹作物)	家畜ふん堆肥施用助成	取組面積 10a当たりの収穫量	1.2 ha 85 kg/10a	5.0 ha 150 kg/10a
14	大豆 (基幹作物)	家畜ふん堆肥施用助成	取組面積 10a当たりの収穫量	4.6 ha 154 kg/10a	10.0 ha 180 kg/10a
14	そば (基幹作物)	家畜ふん堆肥施用助成	取組面積 10a当たりの収穫量	9.9 ha 75 kg/10a	30.0 ha 75 kg/10a
14	飼料作物 (基幹作物)	家畜ふん堆肥施用助成	取組面積 10a当たりの収穫量	19.2 ha 412 kg/10a	30.0 ha 600 kg/10a
14	飼料用米 (基幹作物)	家畜ふん堆肥施用助成	取組面積 10a当たりの収穫量	8.3 ha 769 kg/10a	18.0 ha 780 kg/10a
14	米粉用米 (基幹作物)	家畜ふん堆肥施用助成	取組面積 10a当たりの収穫量	0 ha 0 kg/10a	2.0 ha 720 kg/10a
14	WCS用稲 (基幹作物)	家畜ふん堆肥施用助成	取組面積 10a当たりの収穫量	25.1 ha 1,338 kg/10a	50.0 ha 1,400 kg/10a
14	新市場開拓用米 (基幹作物)	家畜ふん堆肥施用助成	取組面積 10a当たりの収穫量	1.8 ha 660 kg/10a	5.0 ha 720 kg/10a
15	野菜 (基幹作物)	家畜ふん堆肥施用助成	取組面積	15.0 ha	25.0 ha
15	花き・花木 (基幹作物)	家畜ふん堆肥施用助成	取組面積	0.7 ha	3.0 ha
15	果樹 (基幹作物)	家畜ふん堆肥施用助成	取組面積	0.1 ha	1.0 ha
15	その他の高収益作物 (基幹作物)	家畜ふん堆肥施用助成	取組面積	0.2 ha	1.0 ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。